

## はじめに

## 高齢者を委縮させ弱体化させることは どこに狙いがあるか

非正規の若者や年金生活の高齢者が、低賃金と物価高などで生活が厳しくなっています。

私たちのところでは「暮らし労働なんでも相談会」を年3回実施し、就労相談や生活困窮者に米などの食料を支援していますが、年々、高齢者を中心に増えています。特に、約4万円の国民年金を受給している高齢者は、生活保護基準の対象となっても、社会的烙印をおされることを気にして生活保護を申請しない人が多くいます。また、今の高齢者は65歳で定年退職しても、働いている人がほとんどです。

高齢者も忙しい毎日を送り、新聞も購読しないことと、仲間と政治や社会的事象について話し合う機会が少なくなっている現実があります。

国民健康保険などの医療制度や介護保険の改悪が進み、保険料の引き上げの一方で、介護保険利用料の2割負担や高額療養費の引き上げなど給付を削っていき、病気になれば自己責任を押しつけられています。

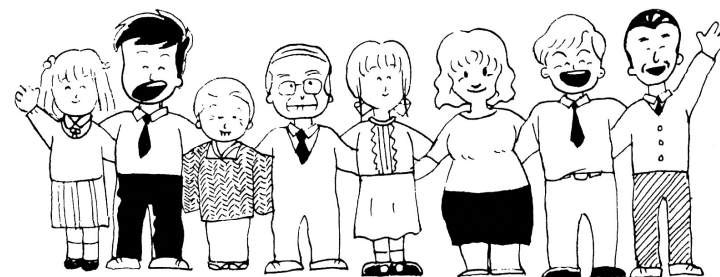
2026年度国の予算は社会保障費を削減する一方で、防衛費は9兆円以上と過去最大の予算となっています。

戦後民主主義で育ち、労働運動を経験した高齢者を攻撃し萎縮・弱体化させることが、憲法を改正し戦争ができる国づくりと大企業の優先の社会を作ることが狙いであること明らかにしなければなりません。

このパンフレットを用い、多くの人に広め、高齢になっても安心して住み続けることのできる社会の実現に向けた取り組みを強化していきましょう。

社会民主党自治体議員団全国会議 議長 狩野光昭

## 今の高齢者は 「姥捨て山」行きか？



## 目次

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| はじめに .....                           | 1  |
| I. 高齢者を「敬愛」対象ではなく「お荷物」「邪魔者」扱いに ..... | 2  |
| II. 大多数の高齢者は疲弊し困窮しつつあります .....       | 5  |
| III. 高齢者の「命綱」ともいうべき社会保障を壊しています ..... | 11 |
| IV. 絶対的貧困化は「持てる者」最優先の政治経済だからです ..... | 20 |
| V. 今の政治傾向は高齢者の生存を奪い戦争に向かっていきます ..... | 27 |
| VI. 意識ある高齢者から働く側全世代に働きかけましょう .....   | 33 |
| 編集後記 .....                           | 36 |

## I. 高齢者を「敬愛」対象ではなく「お荷物」「邪魔者」扱いに

いわゆる「失われた三〇年」で、高齢者を大切にする民主的意識を逆手にとった、(高齢者は)「恵まれてる」「いい思いをしている」という考えや、社会に負担をかける「お荷物」「邪魔者」の意識がつけられてきました。

・長年にわたる「**高齢者富裕論**」が、今日までつづいています。「六〇歳以上の高齢者世帯が金融資産全体の約六割を占有」「世代間で最も余裕があるのが高齢者世代」などと、貧富の格差が激しい社会の中の、特に激しい格差に苦しむ高齢者世代に対して言いつづけるのです。悪質です。戦後つづいてきた「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」とする**九月十五日の「敬老の日」**が、二〇〇三年に九月の第三月曜日とされました。九月十五日は「老人に対し自らの生活の向上に努める意欲を促す」とする自己努力的な「**老人の日**」とされました。それぞれの日をつくることで、老人の「自助努力」を求める動きが強まりました。

・その二〇〇年前後から、敬老の日の**祝い金の縮小や廃止**がはじまりました。ほとんどの自治体では、戦後つづいてきた**高齢者福祉課**がなくなり、介護課内の高齢者支援係などに下げられました。高齢者のための専用相談窓口も分散されました。

・「**子ども最優先**」が行政でも強調されました。それ自体では間違いではありません。しかし、「これまで年金・介護・医療などに、膨大な予算を高齢者に持っていわれている。これを改め子育て

支援に」「高齢者にも応分の負担」が当たり前とされ、社会保障削減がつづけられました。

・一〇年以上前から「**シルバー民主主義**」とする考えが拡げられました。これは「有権者人口に占める高齢者の割合が増加し、若年層や中年層の意見が政治に反映されず、高齢者施策優先となる考え」です。これによっても、高齢者と若者の「世代間対立」がつくられました。

・政権は「**高齢者**」の**公的な定義**を「五五歳↓六〇歳↓六五歳と引き上げています。年金支給開始年齢を引き上げるだけでなく、高齢者をより働かせる社会としています。これから七〇歳に、さらに七五歳以上（経済同友会など）にしようとしています。「六〇歳代なのに遊んでいる」の意識から、さらに「八〇歳まで働いて当然」という間違った意識がつくられつつあります。

・二〇一九年〜二〇二三年にかけて、経済学者？の**成田悠輔**<sup>ゆうすけ</sup>が発した「高齢者は老害化する前に**集団自決**、**集団切腹**みたいなことをすればいい」発言が海外メディアに取り上げられ、ようやく日本でも議論となりました。二〇二二年の報道番組内では、日本の少子高齢化対策として「**安楽死の解禁**」や、将来的にあり得る話としては「**安楽死の強制**」みたいな話も議論に出てくる」と語ったといえます。危険なのは社会のその受け止め方です。批判を受けて起用を辞めたとはいえ、二〇二三年〜二四年にはキリンビールの広告や政府農林省や財務省の広告に成田を起用したとのこと。二〇二五年には石破総理と共に日本メガネベストドレッサー賞を受賞しています。現在もマスコミは「彼の真意は世代交代論」だからとして登場させつづけ、「安楽死」や「尊厳死」などの言葉も拡げられています。

・参政党は、「終末期における過度な延命治療を見直す」との政策を出しています。

- ・ 本人の意思を尊重し、医師の法的リスクを回避するための尊厳死法制を整備。
- ・ 事前指示書やPOLST（生命維持治療に関する医師の指示書）で、医師が即座に心の負担など適切な判断ができるプロセスを徹底。
- ・ 終末期の点滴や人工呼吸器管理等延命治療が保険点数化されている診療報酬制度の見直し。
- ・ 終末期の延命措置医療費の全額自己負担化。

（参政党の政策二〇二五より）

これでは「医師の法的リスクを回避する」ことで安楽死や尊厳死などの名を借りた「法制整備」？につながり、その乱用が拡がります。高齢者に限らず**難病患者や重体・重篤者の若者**への医療放棄の危険性があります。

しかも「医療費の全額自己負担化」では、富裕層のためだけの「金持ちファースト」となり、「金がなければ早く死ね！」となります。この参政党への支持が集まっているだけに、危険性があります。

この「失われた三〇年」での思想方向は、「機械も人も古いのはダメ」「新しいものとはとにかくいい」です。「敬老」でも「温故知新」でもなく、「金のない高齢者は社会のお荷物」とされています。しかも自民党を補強する「新党」の動きも強められてきました。

## Ⅱ. 大多数の高齢者は疲弊し困窮しつつあります

### ① 働く側の高齢者実態が今までになく過酷になっています

高齢者を大切にしない考え方から、高齢者に対する粗末な扱いが様々にはじまっています。

- ・ **高齢者労働の拡がり**です。高齢者就業は過去最多。二〇二三年は六五～六九歳はOECDで、男性は世界最多、女性は韓国に次ぐ高率です。かつて男女ともに労働者は五五歳定年退職で即年金生活でした。今では年金支給開始年齢が引き上げられ、年金額が切り下げられ、退職金も低いために七〇歳代まで働くのが普通とされています。

高齢者労働のはじめのうちは、「日本人は働くのが好き」と「説明」されていましたが、今ではそのような「説明」はなくなりました。

- ・ **高齢者労働の権利後退**が明らかです。「同一労働同一賃金」は無視され、非正規扱いも多く、体調が悪ければすぐに使い捨てられています。

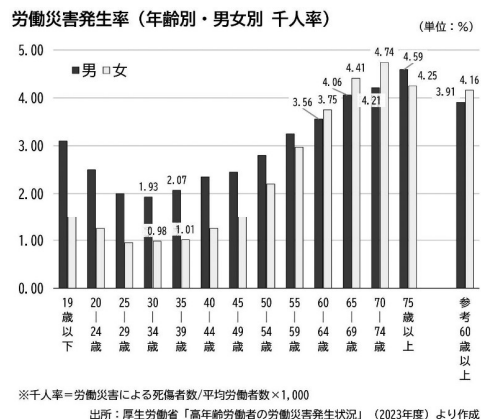
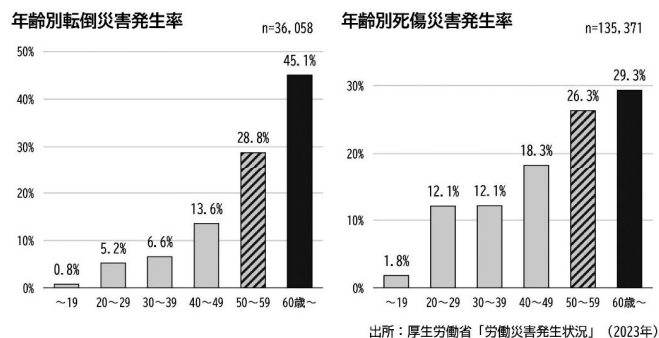
【参考】

厚生労働省は高齢者雇用安定法における次の就業規則の例を示しています。

#### 高齢者雇用安定法の就業規則の例

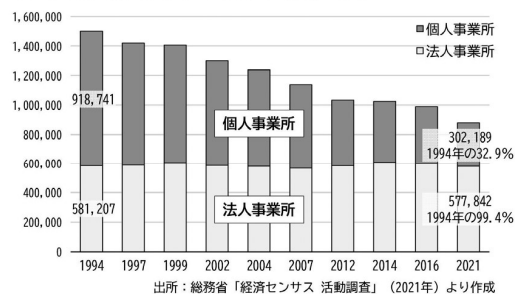
労使協定の定めるところにより…基準のいずれかを満たさない者については、基準の適用年齢まで継続雇用する。

## 労働環境・労働条件の配慮がなく高齢者の労働災害は最多に



## 地域からお店がなくなっている

### 小売事業所（個人事業所・法人事業所）数の推移



帝国データバンクによると二〇二四年の休廃業・解散件数は、六万九〇一九件。大幅増で二〇一六年以降の最多更新。経営者を除く「約九万人の従業員が転退職を迫られた」とのこと。

・「**休廃業・解散・倒産件数**」が激増しています。東京商工リサーチは二〇二五年七万七五一〇件で今までになく増加、倒産は二年ぶり最多の一万三〇〇件（負債総額一、〇〇〇万円以上）と発表。

・**度・研修**などの、作業環境、労働時間、休憩時間など、整備するべき高齢者への配慮がなされていないからです。

・**高齢者の労働災害**は最多傾向です。労働災害は、心身の労働機能が衰える五〇歳代から増えます。特に六〇歳代～七〇歳代で女性労働者の転倒などの労働災害が増えます。男性高齢者（六〇歳以上）の「**墜落・転落**」は二〇代の約**三・五倍**、女性高齢者（六〇歳以上）の「**転倒による骨折等**」は二〇代の約**一九倍**です（厚労省「二〇二四年度労働災害発生状況」）。

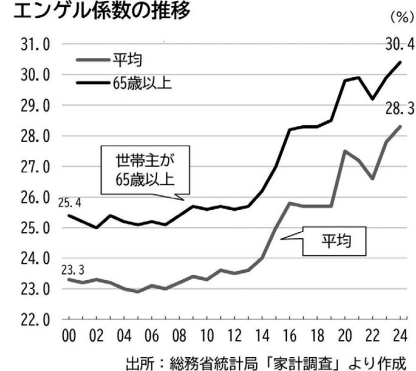
高齢者を低賃金で使うだけで、労働安全衛生法にある**照度・温度・床面・重量物・作業速度・研修**などの、作業環境、労働時間、休憩時間など、整備するべき高齢者への配慮がなされていないからです。

- (1) 引き続き勤務することを希望している者
- (2) 過去〇年間の出勤率が〇％以上の者
- (3) 直近の健康診断の結果、業務遂行に問題がないこと
- (4) 〇〇〇〇

（厚生労働省『雇用安定法ガイドブック』より）

## 高齢者世代が最も貧しい世代に

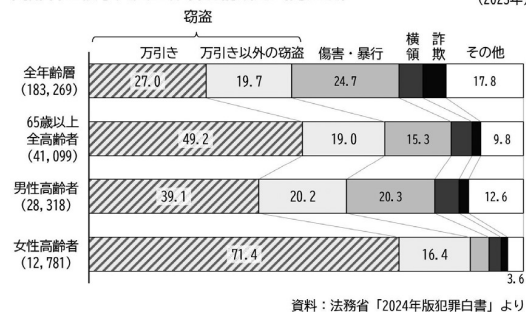
### エンゲル係数の推移



## 高齢者の悲しい万引きの社会とは

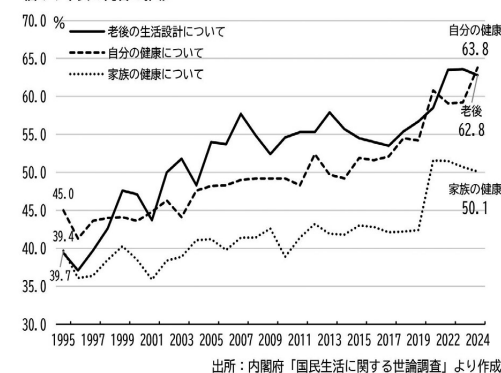
### 高齢者の検挙人員の罪名別構成比（男女別）

(2023年)



## 高まっている老後と健康の不安

### 悩みや不安の内容の推移



この情勢では、高齢者からの解雇が当然とされています。

- ・「小売事業所数の推移」。(小売法人・個人商店別) 最少。「交通難民」「買い物難民」が最多と推定。
- ・「限界集落」。(六五歳以上の高齢者が住民の半数以上を占める集落) 三万一千五百で過去最多。
- ・「高齢者虐待の通告・相談件数」が過去最多。虐待死亡は、政府統計では二〇一四年～二〇二三年の二〇年間で二五五人。死者四四三人との研究者の調べも。
- ・「エンゲル係数の高齢者世帯の高さ」。エンゲル係数とは、家計に占める食料支出の割合で、高くなるほど生活水準の厳しさを示す指標とされています。そのエンゲル係数の全世帯平均が二八・三%と最高値となっています。特に貧しいのは高齢者世帯です。
- ・「高齢者の低栄養傾向」。(体格指数BMI) 六五歳～六九歳で男性は八%、女性は二四%で、八五歳以上では男女共に四人に一人ほどが低栄養傾向です。低栄養が続くと筋肉量が減り、転倒・骨折の可能性が強まるということです。(日経新聞九月二〇日)
- ・「高齢者の万引き犯罪」。全世代中の犯罪数・率ともに最多であり、その被害額は主に千円台の食品の窃盗です。「空腹」も、その主な犯罪理由の一つです。
- ・「殺人件数」。捜査機関が発生を認識した二〇二四年の殺人件数九七〇件、一〇年間で最多。それも「親族間での発生が増加の主な要因」(警察庁)。おそらく二〇二五年はさらに件数が伸びることが想定。
- ・「行旅死亡人数」。(旅行中に死んで引き取る者がいない者。行き倒れ)は、全国統計はありませんが、二〇二四年度の自治体における取扱合計では二〇九人と推定。推定で二〇年間で最多。

- ・「孤立死」は七万六〇二〇人。六五歳以上の高齢者が五万八〇四四人、二〇代以下八四二人(二〇二四年警察庁調べ)で最多。
- ・「無縁遺骨」は引き取り手のない遺骨。二二年度葬祭扶助件数は全国で五万二千五百六十一件となり、過去最多。

…これ以外にもあげれば切りがない戦後最多・最悪の実態です。これは高齢化問題というより、

資本主義社会における働く側の絶対的な窮乏化の表れです。

## ② しかも！「八〇五〇問題」など高齢者が若者世代を支えてもいます

子どもや孫の生活や育児の援助をしている高齢者が多くなっています。それは、全世代において低賃金・長時間労働・不安定雇用・失業・り病者（特にメンタルヘルス不調）などが多くなっているからです。

かつて四〇年程前には、子どもが親に「小遣いを渡す」ことは普通にありました。親への「仕送り」「学費返還」も当たり前でした。今はどうでしょうか。むしろ逆です。また、以前からの「老介護」「認知介護」だけでなく、「八〇五〇問題」が増えています。これは、八〇歳代の年金の親が五〇歳代の子どもの生活を経済的に支えるということで、親子ともに貧困・孤立する社会問題です。子どもの失業などからの引きこもりである場合が多く、親の年金に依存して生活している状況です。引きこもり当初は若者でも、長期化すれば親も子どもも高齢となり、介護に関する問題などが発生します。今では九〇歳が六〇歳をみる「九〇六〇問題」ともなっているそうです。

若い世代も低賃金・過重労働などによって、健康維持も、結婚も、子育ても困難になっています。そのように労働力再生産機能が壊されている中で、年金生活の高齢者への負担Ⅱ依存が大きくされてきました。子どもや孫の実態とも連動して、高齢者は疲弊（へい）しているのです。

## Ⅲ・高齢者の「命綱」ともつづべき社会保障を壊しつつある

社会保障は、労働者・勤労者、そして高齢者の生存にかかわる、いわば「命綱」です。それが医療・介護・年金部分において壊され、激しいインフレ・物価高騰と、それに連動する消費税の自動的増税が、高齢者の生存を脅かしています。

### 税金では

・税金では二〇〇五年公的年金等控除縮小・老年者控除の廃止、二〇一〇年少者扶養控除廃止。そして防衛増税を二六年と二七年からはじめます。「円滑な労働移動を妨げない」ためにと、勤続二〇年以上を超えた退職金税額控除の切り下げ（つまり退職金のためにがんばって勤めつづけても、その退職金にも大きな税をかけるのです）も検討されています。累進課税制を緩和し、国民的要求であつた消費税の減税も、無視されるだけでなく、むしろ増率による増税も目指されています。

・一七八万円の控除の減税でも、基礎控除だけでなく、給与所得控除も大きいので、年金受給者やフリーランス・農業などの人々には、減税でも格差がつけられます。

・消費税の増税です。財政規律を放棄し国債に依存した膨張予算で、さらに激しいインフレとなっています。インフレ・物価高は消費税を自動的に増税とします。米価が二倍となったらその消費税額も二倍です。インフレ・物価高と消費税は、働けなくなった高齢者の生活を困窮させます。

### 年金では

・年金の支給開始年齢も押し上げ、「二〇〇年安心年金」としたはずの二〇〇四年の年金改革（改悪）